

正直言って、値打ちのある大学院でした

2010年度 博士前期課程修了生 岸 博之さん



「自分を変えたい」
—チャレンジ50—

50歳で入学した岸さん、年齢のハンディキャップは？



全くなかったですよ。50歳になって、チャレンジ50(フィフティ)というキャッチフレーズを作ったんです。自分を変えてみよう!! とね。

覚悟の上で来たけど、逆に若い学生さんの方が恐縮していたんじゃないかな。先生に間違えられたこともありますよ。「これ、どうするんですか」って(笑)

印象に残っている科目は？



すべての先生の授業ですね。よく覚えていますよ。平松先生の脳科学や和田先生の心理学のお話なんかは、特にね。

基本的に先生と1対1だったので、申し訳ない気もしましたが、充実した内容でしたので、正直言って、効率のいい「値打ちのある」大学院だな、と思っていました。

総合コアはどうでしたか？



「ああ、沈没しちゃった」
—総合コア—



せっかくパワーポイントの力作を揃えて行ったのに、すごい質問が来て、「ガチャン!! ああ、沈没しちゃった…」って感じです。でも、「もつともだな」と、言われて気づくんですね。きつい言葉に聞こえるけど、そこは耐えなきや。

いかに自分が近視眼的にやろうとしていたかがわかりました。総合学術研究科にはいろいろな分野の先生がいるから、そういう「専門以外の人に伝えることの大切さ」も学びました。今の仕事にも活かされていますよ。



「理と文が糊でひつついで、一つになる」
—文理融合—

岸さんの考える「文理融合」とは？



2つが単純に融合するとは思えませんね。文も理も両方がわかつていないと…。

学んだ後になってから、つながるんですよ。この部分が理、この部分が文というようにね。糊でひつついで、パッチワークのように、自分のやりたいこと、一つの研究が出来上がるんです。私の場合は建築(理系)と人(文系)でしたね。